

KGRN (株)ハウステック OEM: SGCN 積水ホームテクノ(株) :GPH 日本ゼオン(株) VRCN型 前澤化成工業(株) 共同開発: なし 処理方式: 嫌気ろ床担体流動方式 5・7・10人槽	窒素除去型		
	全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N
	20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値			
BOD	SS	T-N	
20mg/L以下	15mg/L以下	20mg/L以下	

初期標準設定

VRCN

循環装置	循環バルブ	逆洗装置	逆洗バルブ
有	有	無	無

循環装置	循環装置バルブ開度(%)		
	5人	7人	10人
有	10~30	30~50	50~70

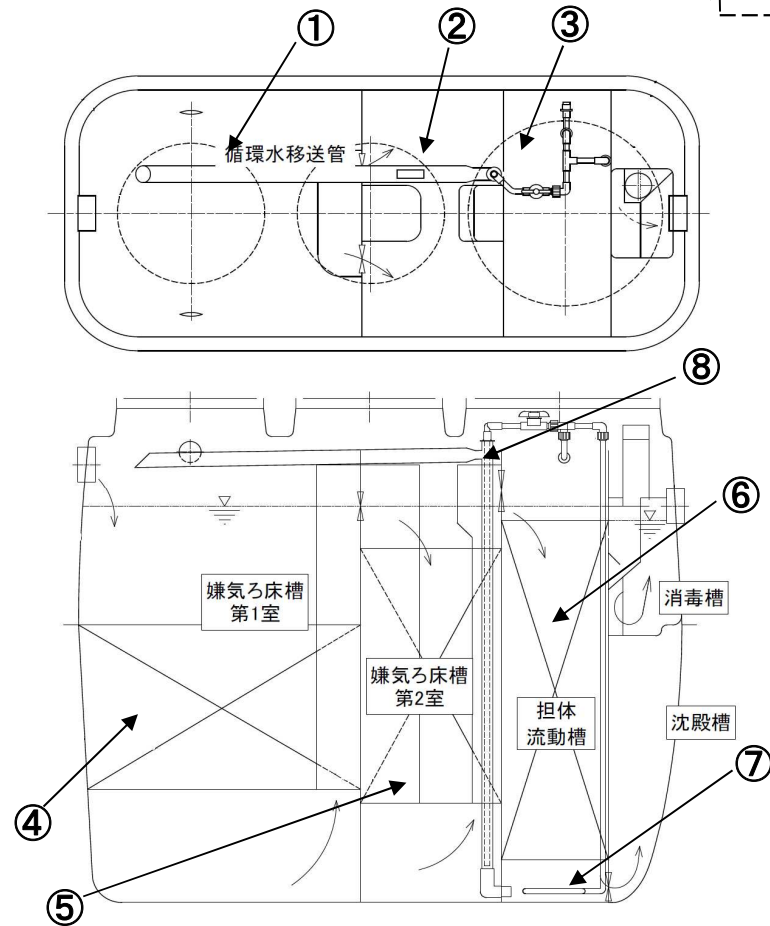
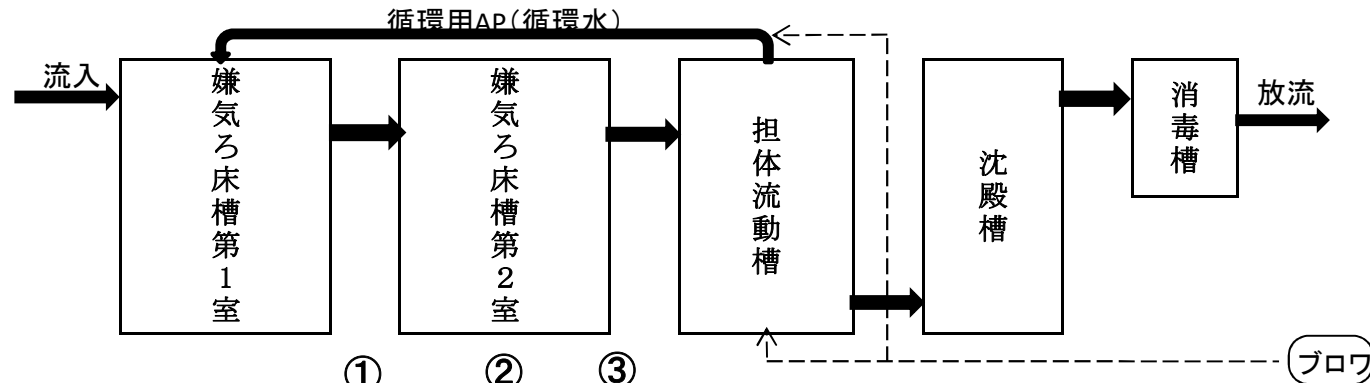
人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)
5・7	60
10	80

[実使用人員に対する循環水量の設定範囲]

実使用人員(人)・人槽	5人以下	6~7	8~10
循環水量(ℓ/分)	2.0~2.4	2.7~3.1	4.0~4.4

特 徴			
嫌気ろ床槽	第1室、第2室とも下向流であり、第1室には網様円筒状ろ材、第2室にはヘチマ様板状ろ材が充填されている。流入水に含まれる固形物の分離と貯留、循環水の脱窒反応が進行する。		
担体流動槽	担体(中空円筒状担体φ12×11mm)に付着した好気性微生物による有機物の分解、アンモニア性窒素の硝化が行われる。		
循環装置	担体流動槽の槽内水の一部をエアリフトポンプによって嫌気ろ床第1室に定量移送する。		
沈殿槽	槽内水が上向きに流れる過程で固形物が分離され、その一部が消毒槽へ流出する。消毒槽への移流口にはスクラムバップルが設置されており、スクラムの流出防止が図られている。		

作業時のポイント	
保守点検	①担体流動槽のばっ気攪拌に偏りが無いか、確認してください。加えて、保守点検ごとに担体押さえ面を洗浄してください。
	②循環水量を上表の水量になるよう実測して調整してください。
	③沈殿槽にスクラムおよび堆積汚泥が認められる場合は、柄杓や自吸式ポンプ等で嫌気ろ床第1室へ移送してください。 ※堆積汚泥の移送には、下記の簡易移送方法もあります。 (1)循環バルブを最大に開きます。 (2)沈殿槽のスクラムバップル外側に塩ビパイプ(VP13、2m程度)を挿入し5分間程度攪拌してください。 (3)作業後、必ず循環水量を元の設定に戻してください。
清掃	①嫌気ろ床第1室の汚泥・スクラム等は、全量引き抜いてください。第2室は適正量としてください。 ②担体流動槽の清掃が必要な場合は、沈殿槽から汚泥を引き抜いてください。



- ① 嫌気ろ床槽第1室
- ② 嫌気ろ床槽第2室
- ③ 担体流動槽
- ④ 嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ⑤ 嫌気ろ床槽第2室ろ材
- ⑥ 担体
- ⑦ 散気管
- ⑧ 循環用エアリフトポンプ

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	嫌気ろ床槽第1室	1.035	1.468	2.289
	嫌気ろ床槽第2室	0.517	0.842	1.230
	担体流動槽	0.399	0.399	0.542
	沈殿槽	0.140	0.140	0.211
	消毒槽		0.021	
合計		2.112	2.870	4.293

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	嫌気ろ床槽第1室	400
	嫌気ろ床槽第2室	350